

生コンクリートを共同販売する首都圏の生コンクリート協同組合が、相次いで契約方式の見直しを求めゼネコン（総合建設会社）と交渉に入った。これまでは受注物件ごとに価格を決めていたが、一年ごとに価格を見直す方式に改める。原材料コストの変動が大きく、従来の契約ではリスクが大

神奈川、湘南生コン協組

契約、1年単位に

きいと判断した。六月以降の契約分に新方式の適用を目指す。その工事が終わるまで据え置くのが通例。大型物交渉を始めたのは「神

件では二年から三年か

変更、ゼネコンと交渉

奈川生コンクリート協同組合（横浜市）と「湘南生コン」と「湘南生コン」と「湘南生コン」は、契約期間を一年に区切り、南生コンクリート協同組合（同）。生コンは価格を見直すよう求めている。工事中でも生コン価格をビルやマンション

原料急騰、リスク低減狙う

生コンの主原料であるセメントは今年四月から一トン千二百円（約一〇％）上昇した。原油価格の急騰で輸送に使う軽油も上がっている。「原材料コストの急激な上昇により、従来の商慣習を見直す必要に迫られている」（神奈川生コン協組）という。